

銚子の醤油づくりを支えた醸造用水

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第028号
名称(型式等)	竜の井(通称：玄蕃井戸)
所在地	千葉県銚子市前宿町
設立(竣工)年	慶応 4(1868)年

選定理由

竜の井(通称「玄蕃井戸」)は、江戸時代末期から明治時代にかけてヒゲタ醤油株式会社の前身であるヒゲタ醤油の醸造用水として用いられていたものです。

当初は飲料に用いる普通の井戸水を使用していましたが、田中玄蕃十代貞短氏の頃より製造石数も増加し、多量の良質の水が要求され、慶応 4(1868)年に通称「玄蕃山」といわれる所有している山林で地下水を集め、これを竜の井と名付けました。そして、従来の井戸水を廃して、この地下水を醸造用に使用しました。

地下水は、何本もの取水口を通過して集水場に集められ、取り出されたと思われます。集水場の中には竜神像があり、その口より水が流れ出るようになっています。この水は土管を通して今の東町 285 番地の醸造場に引込まれ、醤油を作るのに用いました。現在では醤油の醸造用水としては使用されていません。

日本遺産となった「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の街並み」を構成する文化遺産としても取り上げられています。



写真 1：横穴の入口



写真 2：集水場からの取水口